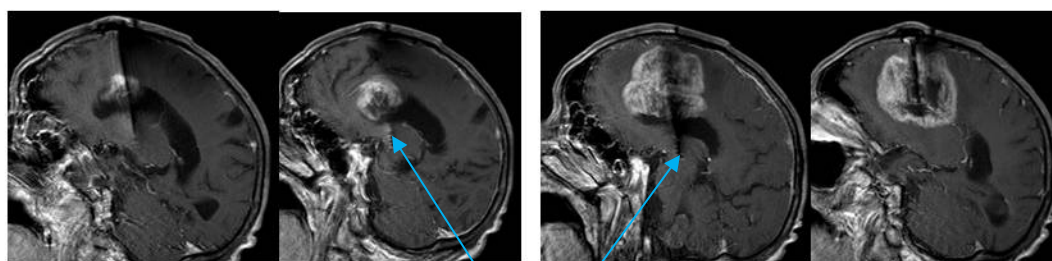


6. 脳深部刺激療法中に発生したグリオブラストーマについての検討

パーキンソン病に対する脳深部刺激療法中に、刺激電極の周囲にグリオブラストーマが発生した。このようなケースは世界で最初の報告であり、脳深部刺激療法が癌を誘発するかについて、考察を加えた。発生したグリオブラストーマは左前頭葉から発生し、脳梁を介して対側の前頭葉に広がり、グリオブラストーマで良くみられる Butterfly 浸潤を呈していた。また、髄腔内播種を認めるグリオブラストーマでありながら電極先端部の刺激点に向かって浸潤していないことから、逆に刺激によって刺激部位への浸潤が抑制された可能性もある。また、これまでに数多くの脳深部刺激療法が施行されているにもかかわらず、グリオーマの発生例が報告されていない。よって、脳深部刺激がグリオーマを誘発するとは考えにくいと結論した (1)。



左半球

刺激電極先端部

右半球

文献

1. Yamamoto T, Fukaya C, Obuchi T, Watanabe M, Ohta T, Kobayashi K, Oshima H, Yoshino A: Glioblastoma multiforme developed during chronic deep brain stimulation for Parkinson disease. *Stereotact Funct Neurosurg* 94: 320-325, 2016